

令和7年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる児童を育成する。

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①言語活動の状況
(授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている割合)
R4 95.3% → R5 100%
言語活動を中心とした授業の実施が増えており、学校訪問の際にもその傾向が見受けられる。

②英語の授業におけるICT機器の活用状況（50%以上の授業で実施した割合）
「児童が一人一台端末等を活用」
R5 31.4% → R6 39.2%
【R6は県独自調査結果から】

未だ改善が必要な点

①CAN-DOリストの活用状況、設定、公表、達成状況の把握
R4 R5ともにすべて 100%
しかし、見直しやさらなる活用が各学校において必要である。

②小中連携の状況および取組内容
「小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定を実施している」
R4 44.8% → R5 39.1%

2. 要因分析

①令和3～5年度までの3年間、地方別外国語教員研修を実施し、学習指導案の検討や英語専科による授業の公開を行ったことにより、指導方法や学習内容の理解が深まり、言語活動の割合状況が改善していると考えられる。

②上記研修や小中連携推進事業において、一人一台端末を活用した授業を公開したこと等により、児童による端末の活用が進んできている。今後も引き続き、ICT機器の効果的な活用方法の研究及び好事例の共有が必要である。

①研修会やCAN-DOリストの意義を教員に伝えるとともに、市町村教委との連携による効果が出ている。小・中学校の円滑な接続や系統性に配慮したCAN-DOリストの作成及び効果的な活用が必要である。

②小中連携したカリキュラムや学習到達目標を設定する必要性は感じているものの、実際にどのような形で連携を進めていけば効果的なのか、研究途中である。また、学校訪問等の際には、小学校と中学校の教員が互いの指導内容や目標を十分に共有できていないと感じられる様子が見受けられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②小中連携の推進

児童生徒の英語によるコミュニケーション能力及び教員の指導力向上を図るため、「英語教育における小中連携推進事業」において、昨年に引き続き県内2地域で連続性と系統性を持った効果的な指導方法や評価方法の研究を行い、その成果を普及する。

(内容) ・小・中学校の円滑な接続や系統性に配慮したCAN-DOリスト等の作成及び授業実践
・公開授業、実践発表等による研究成果の普及 等
※研究成果をHP等で公開することにより、小中高の連携を推進する。
和歌山県教育委員会Webページ「英語教育改善プラン推進事業の取組」
(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/501100/d00209715.html>)

②ICT機器の効果的な活用の促進

引き続き、市町村教育委員会指導事務担当者等会議や研修会において、ICT機器の効果的な活用について周知するとともに、好事例を共有する機会を設定する。

①②実践的指導力の向上

中学生対象の英検IBAへの接続として小6を対象に英検ESGを活用することにより、学習到達目標の児童との共有や、達成状況の把握を学習評価につなげていく方法を学び、実践的授業力の向上を図る。また、分析資料を活用して、小中連携したカリキュラムや学習到達目標が設定できるよう周知する。

【新規採用に係る取組】

一定の英語力を有する教員を確保するため、教員採用試験において加点制度を設けている。また、英語の技能検定の成績等による免除も実施し、英語力を有する教員の確保に努めている。

令和7年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる生徒を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：47.8%⇒R7：54%）

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①英語の授業におけるICT機器の活用状況

※50%以上の授業で実施した割合
「生徒が学習者用デジタル教科書を活用」

R5 36.5% → R6 56.6%

「デジタルドリルや動画等のコンテンツの活用」

R5 24.3% → R6 45.1%

②①R6全国学力・学習状況調査の生徒質問調査の結果において、（1、2年生の時の授業で）「（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていた」と思っている生徒の割合が上昇したが、全国と比較すると、未だ課題が見られる。
※肯定的に回答した生徒の割合

【県】R5 57.9%→R6 66.4%

【国】R5 63.8%→R6 68.8%

②生徒の英語力（CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合）について、R6の目標（54%）を達成できなかった。

R5 51.3% → R6 47.8%

2. 要因分析

①研修や学校訪問等においてICT機器の活用事例等について教員に紹介するとともに、市町村教委と連携することにより、英語の授業におけるICT機器の活用が進んできている。今後は引き続きICT機器の効果的な活用方法の共有が必要である。

②①県内全ての中学校教員を対象に実施した「中学校英語教員研修」等により、言語活動を通じた授業づくりの理解が深まり、授業における即興によるやり取りが増えたと考えられる。しかし、全国と比較すると未だ課題があるため、今後は、更に言語活動を充実させるとともに、質を高める必要がある。

②言語活動を通して指導することについての実践が進んでいるが、指導方法については更に改善が必要である。また、外部検定試験の受験率の低下や、英検IBA(WS)の活用が限定的であることも要因であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②中学校英語教員を対象とした研修
英語辞書における学習指導の改善・充実等に向けた方策を学び、実践的指導力の向上を図るため、「中学校英語教員研修」を実施する。
（内容）・学力調査官による講義、演習等

①②①②英語による発信力の向上
言語活動を通じた指導についての効果的な技術を習得し、授業実践に生かすことにより、中学生の英語の発信力向上に必要な指導力の向上を図るため、県内1地域で「英語教育における発信力強化事業」を実施する。
（内容）・外部機関と連携した研修、授業実践、振り返りとフィードバックのサイクルへの取組
・研究成果の普及 等

①②①②小中連携の推進
児童生徒の英語によるコミュニケーション能力及び教員の指導力向上を図るため、「英語教育における小中連携推進事業」において、昨年に引き続き県内2地域で連続性と系統性を持った効果的な指導方法や評価方法を研究を行い、その成果を普及する。
（内容）・小・中学校の円滑な接続や系統性に配慮したCAN-DOリスト等の作成及び授業実践
・公開授業、実践発表等による研究成果の普及 等
※研究成果をHP等で公開することにより、小中高の連携を推進する。
和歌山県教育委員会Webページ「英語教育改善プラン推進事業の取組」
(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/501100/d00209715.html>)

①②①②客観的な指標による生徒の英語力の把握及び授業改善
生徒の学習意欲の向上と、学習定着状況の把握による授業改善を図るため、中学生対象の英検IBAを引き続き活用する。（WSはオンラインで実施）また、小6対象の英検ESGの結果分析を小中で共有する。

令和7年度 和歌山県 英語教育改善プラン

グローバル社会において活躍するために、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることのできる語学力・コミュニケーション能力・国際理解の精神などを身に付けた人材を育成する。

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

(R6 : A2以上 48.2%、B1以上 18.1% ⇒R7 : A2以上 56.0%、B1以上 26.0%)

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語力
(CEFR A2レベル相当以上
R5:48% ⇒R6:48.2%)
- ②教員の英語力
(CEFR B2レベル以上
R5:75.8% ⇒R6:78.5%)
- ③英語担当教員の授業における英語使用状況
(R5:42.7% ⇒R6:51.8%)

未だ改善が必要な点

- ①授業における言語活動時間の状況
(R5:48.8% ⇒R6:44.1%)

2. 要因分析

- ①③外部専門機関と連携し、英語教員の研修会において、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を高めるための指導方法を普及できた。
- ②③英語力を高めるための自主研修の在り方について、研修会等において指導し、特別受験制度の活用を促して積極的に外部試験を受験するよう指導した。

- ①校種間連携を図り、公開授業等を通して、英語担当教員が言語活動が中心となる授業づくりの重要性を再認識し、授業改善への意識を高められるような機会が十分ではなかった。また、ICTや生成AIの導入にややとまどいがあり、生徒の言語活動が減少した可能性がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①和歌山県高等学校教育課程研究協議会において、協議・情報交換等の一層の充実を図るとともに、和歌山県高等学校英語授業改善研究協議会において効果的な研修を計画する。また、和歌山県高校生英語ディベート大会における参加生徒数の増加を目標にし、各学校に呼びかける。

- ①和歌山県高等学校教育課程研究協議会及び和歌山県高等学校英語授業改善研究協議会において、生徒の英語による言語活動時間の割合及び英語担当教員の授業における英語使用状況が改善する内容を検討するとともに、ICTや生成AIの活用を踏まえた授業改善を促すことにより、授業における言語活動時間を増やしていく。

優秀な教員の公開授業等を対面又はオンラインで参観することにより、授業改善を図る。また、異校種の公開授業、実践発表等の研究成果等も共有することにより、小中高の連携を推進する。

和歌山県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	48	54	48.2	56		58		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	17.7	24	18.1	26		28		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	48.8	100	44.1	100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	38.2	100	35.9	100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	38.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	59.6	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	75.8	77	78.5	79		80		81			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	42.7	100	51.8	100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	53	51.3	54	47.8	54		57		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	95.6	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	100	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	35.1	50	33.6	50		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	95.1	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	100	100	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100